

図書館情報メディア系リサーチグループ 平成 25 年度報告書

提出日 平成 26 年 5 月 6 日

リサーチグループの名称	
知のサーキュレーション (Circulation of Knowledge)	
リサーチグループ設置期間	
平成 25 年 7 月 ～ 平成 30 年 3 月	
リサーチグループ構成員	
所 属 ・ 職 名	氏 名
図書館情報メディア系・准教授	宇陀 則彦
図書館情報メディア系・教授	逸村 裕
図書館情報メディア系・准教授	池内 淳
図書館情報メディア系・准教授	上保 秀夫
図書館情報メディア系・准教授	高久 雅生
図書館情報メディア系・准教授	辻 慶太
図書館情報メディア系・准教授	手塚 太郎
図書館情報メディア系・准教授	呑海 沙織
図書館情報メディア系・准教授	芳鐘 冬樹
図書館情報メディア系・講師	三波 千穂美
図書館情報メディア系・講師	時井 真紀
図書館情報メディア系・助教	関 洋平
同志社大学社会学部・准教授	原田 隆史
同志社大学社会学部・助教	佐藤 翔
研究目的	
<p>本研究グループは「知のサーキュレーション」というモデルを提案し、実際にシステムを構築することで「知識インフラ」の在り方について考察する。本研究では、「知のサーキュレーション」を“知識が再利用されることで、意味や価値が遷移し、新たな知識が生成されること”と定義する。</p> <p>第 4 期科学技術基本計画では、研究情報を統合して検索、抽出することが可能な「知識インフラ」の構築を進めるとあり、各方面で知識インフラの整備をうたったプロジェクトが展開されている。しかしながら、「知識インフラ」の具体的在り方についてはほとんど研究されていない。そこで本研究グループを設置することで、この問題について研究する。</p>	

## 研究成果

研究成果は大きく 2 つある。一つは知のサーキュレーションは何かという理解が議論をとおして深まったこと。もう一つは知のサーキュレーションの実験環境のプロトタイプシステムを構築したことにより、システムの目指すべき方向性がある程度具体化したことである。

知のサーキュレーションについては、研究組織での議論で様々な意見が出たが、まずは知のサーキュレーションの最小状態を定義し、そこから徐々に拡張して研究することが望ましいという合意にいたった。その結果、知のサーキュレーションの最小状態とは、一対一の状態で知識が一巡した場合を指すとした。知のサーキュレーションは、この最小状態から様々な形で拡張可能である。

プロトタイプについては、「研究アルバムシステム」という名称のシステムを構築した。これは、研究室内の研究ノート、文献、ゼミの記録、コメントなどの研究情報を蓄積し、相互に参照し、編集することによって、研究情報を循環させ、研究の活性化を測ることを目的としたシステムである。

## 代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等

1. 常川真央, 松村敦, 宇陀則彦. 日本十進分類法を用いた類似読者発見手法. 情報メディア研究 (情報メディア学会誌) , 2013, Vol. 12, No. 1, p. 42-51.
2. 米島まどか, 松村敦, 宇陀則彦. LogView: 振り返りを支援するライフログブラウジングシステム. 電子情報通信学会 2014 年総合大会講演論文集, 2014, D-9-1.
3. 村元俊一郎, 松村敦, 宇陀則彦. 主観ライフログを用いた発想支援システムの開発. 電子情報通信学会 2014 年総合大会講演論文集, 2014. D-23-5.
4. Fukuzawa, R.; Joho, H.; Maeshiro, T. "Survey on Practice and Experience of University Students' Task Management: Case of University of Tsukuba, Japan". Proceedings of the 5th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice. Khon Kaen City, Thailand, 2013, p. 211-224.
5. 辻 慶太, 滝沢 伸也, 佐藤 翔, 池内 有為, 池内 淳, 芳鐘 冬樹, 逸村 裕. 図書館の貸出履歴と書誌情報を用いた図書推薦システムの有効性. 図書館会, 2013, vol. 65, no.13, p. 253-267.